

## 漢字に強い子はどんな学科にも強い

わたしの長男が、慶応の普通部に在学していたころのことです。父母会で、こんなお話を聞きました。

「全校生徒に漢字のテストを行なったが、その結果、漢字テストの成績のよい生徒ほど、他の学科の成績もよく、漢字テストの悪い生徒ほど、他の学科の成績も悪い」というのです。

このテストをなさり、このお話をしてくださった先生は、いま、普通部長をしていらっしゃる飯泉先生ですが、中学生にも、そういうことがあるのを知り、わたしはたいへんおもしろくこのお話をうかがいました。

## 算数ができないのも文章が読めないから

わたしは、小学校の教育に足を踏み入れて、ちょうど十年になります。そのあいだ、漢字がしっかりと読み書きできる子どもは、ほとんど例外なく、どんな学科でもよい成績を修めていることに、わたしも気がついていました。でも、最初のうちは、漢字がよくできるほどの頭のよい子なら、なんだってよくできるのがあたりまえだ、くらいに考えていました。しかし、多くの先生がたと話し合い、自分の教員生活も長くなってきましたと、漢字力が読書力の鍵になっていることがわかってきました。

たとえば、算数で、応用問題(いまでは、文章題といっています)の解けない子どもを、よく調べてみますと、けっして式が立てられないのではなく、まして、計算ができないのではないのです。文章がよく読めないために、問いの意味がわからないのです。問いの意味がわからないので、式を立てることができないのです。

この傾向は、社会科や理科になりますと、いっそう強くなります。問題を読んでやると、成績がぐんとよくなり、ひとりでやらせると、成績がまるっきり悪くなってしまいます。これは、明らかに、質問の意味がよく読み取れない、つまり、読書力の弱さを物語っていると思います。